

2 0 2 5 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 11 日

1. 職名・氏名 教授・高田裕行

2. 学位 学位 博士、専門分野 地球環境科学、授与機関 北海道大学、授与年 2000

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 古生物学概論（2 単位）、1 年生（オムニバス形式で 7 回担当）
②内容・ねらい 古生物学の基礎的知識を取得するような内容であり、古生物学が地球科学の研究に果たした役割を理解してもらうことをねらいとする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本講義は、安藤教授との共同のオムニバス形式とし、各々の専門分野を活かして、具体例の紹介を通して、学生への理解を促した。古生物学は用語・概念の理解が今後の教育にも重要であるため、配布試料でそれらの用語・概念を示すことを心がけた。
(2)その他の教育活動 公開講座での普及活動および 1 年生の補講
内容 本学および池田町教育委員会が共催した公開講座「サマーナイトキャンパス」において、「日本海の長期・短期環境変動と生物の応答」（全 5 回）で、オンライン講義 1 回を担当した。私は、「二枚貝の殻に記録される最近の暖冬と厳冬の発見」という演題で、若狭湾沿岸で過去の冬季モンスーン変動を捉える試みを中心に、研究成果を説明した。 この他、入学時のプレースメントテスト「化学」での成績不振者に対して、高等学校教科書「化学基礎」を用いた補講全 8 回を実施したが、そのうち 2 回を担当した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

なし

【 本】

②学術論文（査読あり）

1. Holocene Millennial - Scale Variations of *Neogloboquadrina pachyderma* (Planktonic Foraminifera) in the Southeast Coastal Areas of Korea, Takata, H., Chung, J.-H., Cheong, D. and Khim, B.-K., *Paleoceanography and Paleoclimatology*, 40, e2025PA005131. (2025.10)

韓国南東域で採取された 2 本の堆積物柱状試料で、浮遊性有孔虫化石を検討し、千年スケールの海洋表層環境の周期的変動を論じた。

2. Quaternary benthic foraminifera of core PC311 atop a seamount in the Magellan Seamounts (western Pacific Ocean), Takata, H., Hayashi, H., Horiuchi, S., Nomura, R., Yoo, C. M. and Khim, B.-K., accepted, *Paleontological Research*, (accepted) (2025.12)

西赤道太平洋で採取された堆積物柱状試料で、浮遊性有孔虫・石灰質ナノ化石層序をもとに堆積年代を推知した。また、底生有孔虫化石の産出傾向を議論し、海洋底層／表層環境が密接に関連したことを論じた。

3. Orbital-scale competition of biogenic carbonate and opal production and its implication on carbon cycle at Del Caño Rise in the Indian sector of the Southern Ocean, Choi, H., Crosta, X., Billy, I., Irino, T., Ha, S., Takata, H. and Khim, B.-K., 2025, *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 679, Article 113290. (2025, 12)

南大洋で採取された堆積物柱状試料で、浮遊性有孔虫化石にもとづく酸素同位体比層序で堆積年代を推定した。また、堆積物化学組成をもとに同海域の環境変遷を論じた。

4. Integrated chronostratigraphy of Magellan Seamount KC-7 in the western Pacific Ocean for Late Neogene paleoceanographic studies., Khim, B.-K., Kim, W., Hayashi, H., Kuwano, D., Routledge, C. M., Takata, H. and Yang, K., *Newsletters on Stratigraphy*, 58, 397–420. (2025, 12).

西太平洋から採取された堆積物柱状試料で、浮遊性有孔虫・石灰質ナノ化石層序および古地磁気層序をもとに、堆積年代を推定した。

【4 本】

③その他論文（査読なし）

なし

【 本】

④学会発表等

1. Biotic response of deep-sea benthic foraminifera in the northeast tropical Indian Ocean during MIS 15–13 at the onset of the mid-Brunhes dissolution interval, Japan geoscience Union Meeting 2024, Chiba, Japan, May, 2025, Takata, H., Ikehara, M., Seto, K., Asahi, H., Lim, H. S., Hyun, S. and Khim, B.-K. (ポスター発表)

北東インド洋で採取された 2 本の堆積物柱状試料で、後期更新世の底生有孔虫化石群の長期変遷を解析し、海洋環境の変遷との関係を論じた。

2. Millennial-scale fluctuations of planktonic foraminifera off southeast Korea during the Holocene and its implication to paleoclimatic changes in the surrounding areas. Western Pacific Drilling Meeting, Taipei, Taiwan, November, 2025, <u>Takata, H.</u>, Chung, J.-H., Cheong, D. and Khim, B.-K. (口頭発表) 韓国南東域で採取された 2 本の堆積物柱状試料で、浮遊性有孔虫化石を検討し、千年スケールの海洋表層環境の周期的変動を論じた。 3. Temporal perturbation of the sinking of particulate organic matter in the northeast Tropical Indian Ocean during the onset of the mid-Brunhes dissolution interval. Paleosciences Society, Nagoya, Japan, November, 2025, <u>Takata, H.</u>, Kang, J., Kim, Y., Cho J. H., Ikehara, M., Khim, B.-K., Thomas, E. and Hyun, S. (ポスター発表) 北東インド洋で採取された 2 本の堆積物柱状試料で、後期更新世の底生有孔虫化石群に加えて、浮遊性有孔虫化石の炭素同位体比、バリウム・アルケノンの沈積流量を検討した。それをもとに、過去の水柱における有機物の沈降過程を論じた。 【3 件】	⑤その他の公表実績 なし 【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 1. 科学研究補助金・基盤研究 (C)「日本沿岸域における十~百年規模変動解明に向けた新たな冬季モンスーン指標の適用」(R7.4~R9.3) (研究代表者) 4550 千円. 2. 住友環境研究助成「12~15 世紀の冬季モンスーン十年規模変動からみる近畿地方の気候変動の安定さ」(R7.11~R8.11) (研究代表者) 1300 千円. 【学内】 3. 個人研究推進支援 (ステップアップ研究支援)「前期更新世における対馬海流の本格的流入の開始過程および太平洋低緯度域との気候リンケージの検証」(研究代表者) 567 千円	
(3)特許等取得	
なし	
(4)学会活動等	
なし	

5. 地域・社会貢献活動

⑥ 福井県立大学・池田町公開講座「サマーナイトキャンパス」・「日本海の長期・短期環境変動と生物の応答」において、「二枚貝の殻に記録される最近の暖冬と厳冬の発見」との演題で、2025年9月にオンライン講演した。

6. 大学運営への参画

(1)補職

なし

(2)委員会・チーム活動

ファカルティデベロップメント（FD）部会 恐竜学部担当委員（R7.4～現在にいたる）

(3)学内行事への参加

- ・ 福井県下の高等学校 6 校の進学相談会において説明担当
（進学担当教員向け 4 回：）若狭高校（5 月）；大野高校・丹生高校・武生東高校（6 月）
（生徒向け 2 回：）福井農林高校（7 月）；高志高校（9 月）
- ・ 大学進学フェア大阪（7 月）での説明担当
- ・ 福井県立大学・恐竜学部のオープンキャンパス（8 月）での運営分担

(4)その他、自発的活動など